

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090800010		
法人名	医療法人 富士たちばなクリニック		
事業所名	グループホーム明月		
所在地	群馬県渋川市伊香保町伊香保525-202		
自己評価作成日	令和2年4月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

趣味活動を入所後もなるべく長く行えるように支援している 併設のデイサービスとの交流も含め、イベント等は頻繁に行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

常に利用者本位の視点に立ち返り、そのひとのこれまでの生き方や考えを尊重し、編み物や盆栽などの趣味活動の継続、個々に合わせた生活リズムの尊重・洗濯物をたたむなどの場面づくり、誕生日においては家族と相談してその人の希望する外出先などを検討、さらに、看取りにおいては最期まで家族との思い出づくりをサポートするなど、本人・家族の思いに寄り添った支援に努めている。また、職員の考えや対応をもとに、それが理念にある「丁寧」だろうかなど話し合い、利用者の担当制や看取り後の振り返りのカンファレンスの実施・自己評価の実施など、職員が責任をもって関わるような場面づくりをつくり、職員育成を図っている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で復唱し、理念の大切さを忘れないようにしている	昨年、開設時の理念を見直し、職員で理念を創り上げることで、事業所が目指すものを職員で考える機会となっている。朝礼で復唱することだけでは理念を活かすことができないと、日々のケアについてカンファレンスで理念に立ち返って判断するようしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の慰問を積極的に受け入れ、道路清掃にも参加している	地域との交流は、出向くことと迎えることであると考えて、自治会に加入し、道路清掃や新年会などに管理者が参加して関係づくりをしている。その他、隣接したデイサービスと合同に、地域や保育園児・中学校生徒など多くの訪問を受け入れて、利用者の笑顔につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設でのイベントや多種の勉強会を行い、そこに参加して頂いて、どのようなところか、どのようなケアをしているか知って頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂き、意見交換を行っている	できるだけ参加しやすいように、会食形式やりんご狩りなどイベントとあわせて会議を行っており、半数の家族の参加につなげている。そうしたなか、看取りについて説明を行い、家族の考えを聞くなどしている。反面、地域の方の参加に至っていない部分がある。	地域の方とのつながりを活かし、会議内容や開催方法の検討を行い、地域の方の参加につながるような働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なところは問い合わせさせて頂いたりしている	利用に対して難しい場合でも、その方や家族の意向をもとに相談しており、今後もそうした事例を相談していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の中で、学習を行っている。	日々のケアを検討するなかで、常にその人にとっての支援はと立ち返り、そのひとの尊厳を重視して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マットレスを敷く・センサーを活用するなどしているが、やむを得ず身体拘束をする場合には様子を観察し、解除できるよう話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声を掛け合い、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修に参加し、理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等で話せる機会を設けている。	利用者の支援に関する要望を取り入れることは多いが、運営に関する意見を意識して聴取していないが、運営推進会議で看取り実施について・イベント開催についてなど、家族の意見を聴取する働きかけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の会議で職員の意見を取り上げている	会議では、できるだけ多くの職員の意見を反映させようと、ときには職員を指名して意見を聞いたりしている。その他、日々の業務のなかで意見を聞き、まずはやってみる姿勢で意見を取り入れており、利用者にあわせた入浴時間の実施などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく働きやすい職場作りをするべく、現場の意見を取り上げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を行ったり、外部の研修に参加したりしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学やボランティア等を行い、刺激を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何を望まれているか、コミュニケーションを通し、安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事に耳を傾け、サービスに反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている事を見極め、良いサービスが提供できるように心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム特有のケアができる様に心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会を促し、来所時は情報の共有を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設されたデイサービスに知人の方が来ていれば、気軽に合えるように支援している	ドライブにあわせて自宅の近くを通りそうしたなかで会話が弾んだり、これまでの趣味である編み物や盆栽が楽しめるようにしたりしている。また、要望があれば地域のサロンに参加したり、生家に行ったりなど、利用者や家族と相談して個別の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならない様に気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談しやすい環境作りを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの希望を汲み、できる限りその希望を叶えるよう努めている	会話のなかで汲み取ったり、言語化できない方に対しても差がでないように寄り添い、これまでの好みなどを踏まえて検討している。生活においてはその人が好きなように過ごしてほしいと考え、起床時間や入浴している時間など、そのひとの生活リズムを尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の家族から話を聞き、個人に合った生活リズムを支援できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの過ごしかたを記録を通して把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がこれまで以上に居心地良く暮らせるよう話し合い、介護計画に反映させて言います	利用者に向き合うことが大切と考え、担当職員が月1回のカンファレンスのための資料を作成することとし、他の職員も意見を追加して、それらをもとにケアマネジャーが介護計画を作成している。モニタリングは、継続・追加・削減などわかりやすいようにして、次のプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	伝言帳や送りで日々の様子やケアの情報を職員間で共有し実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に出来る限りこたえられるように職員間で話し合いを行い、サービスの質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の希望する生活が行えるような資源活用を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望をできる限り受け入れ、納得した上で適切な医療を受けられるようにしています	入居時に、事業所の協力医(月2回の往診対応・訪問看護との連携)について説明している。事業所の協力医以外の受診の場合には、基本家族の対応とするが車いす利用など移動が困難な場合には病院で合流し付き添い、受診結果や服薬などの情報を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に関して気になる事があれば、看護職に相談し、適切な指示をうけるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には職員が面会に伺い、再入所した際にスムーズに帰ってこれる様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族の希望、要望を聞いた上で職員間で情報を共有し、最善のケアができる様に努めています	訪問看護・往診のもと、看取りを行っている。看取り後は振り返りのカンファレンスを行い、それが職員の向上と自信につながっている。最期までなにをしたいか家族と相談しながら、亡くなる2日前に生家に行くなど、利用者・家族の思いの実現に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて急変時のマニュアル、初期対応できる連絡網を作成しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、避難方法を身につけています	年に2回昼夜想定で避難訓練を実施している。日頃のつきあいのなか、近隣の中学校には災害時の避難所としての受け入れを依頼している。大雪を想定し、備蓄を行い、決められた積雪になった場合には管理者に連絡をして駆けつけ、職員体制確保としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴やその人の性格に配慮した言葉かけを行うようにしている	生活のなかで活躍していただく場合には、その人の性格にあわせた声かけで気持ちよくしていただけるようにしている。呼称や対応については、利用者はお客様であり目上の方であることは忘れないよう伝え、家族や第三者がみても違和感のない対応を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分けながら、希望や思いをくみ取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話を通し、本人の希望に沿った行動を取って頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな物や体調にあったものを着て頂くようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁やピーラーを使い、出来る事でお手伝いいただいている	食事は、利用者のたのしみであり季節を感じる事ができるものとして、旬のものを提供するなど、職員の手作りの食事を提供している。利用者に包丁を使ってもらったり後片付けなどを手伝ってもらいながら、コミュニケーションの場としている。また、たこやきやチーズケーキづくりなどおやつづくりも、できることをしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事量を記入し、食事量が低下した際などは補食等で補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやスポンジ、潤滑剤など使い支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や訴えなどを記録し、支援している	立位がとれない・座位がとれないなどできない原因がなければ、できるだけトイレで、ズボンや下着をさげるなどできないところのみを介助している。退院後など、トイレに行くことをきっかけに歩けるようにするなど、自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に注意し、その人のリズムを把握し取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮し、声掛けを行い、入浴を行っている	不眠の方には夕方入浴を検討するなど、そのひとにあわせた入浴を検討している。入浴を嫌がる方には、できるだけ気分をあげてから声をかけたり、着替えをきっかけに入浴につながるようにしたりしている。デイサービスの大きな浴槽・足浴を利用したりして、たのしめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動などを通して、なるべく眠れるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回の往診があり、上申の為、体調等の変化の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、畑仕事、盆栽など、その人の趣味や能力に応じて行って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季を通してドライブや食事会などを行っている	現在コロナウイルス感染リスク下であり外出ができないが、それまでは季節毎にお花見などに出かけていた。日常的には周辺を散歩したり、すぐ近くの公園とテニスコートでテニスやゲートボールが行われ、観戦に出掛けたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭をお渡しすることはしていない。 必要物品はお小遣いの範囲で購入するようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族と相談の上対応		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に考え、飾りつけを行っている	また来たいと思ってもらえるような明るい雰囲気づくりを心掛けており、塗り絵や折り紙の作品などを飾り、季節が感じられるようなものを掲示している。席の配置など、利用者間の人間関係にも気を配り、職員が間に入って調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士でお話されたりするのに制限は設けていない。トラブルになりそうであれば仲裁している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な物があればご家族に相談し購入している	入り口にはわかるように名前を表示して、基本危険のない馴染みのものの持ち込みを依頼しており、ベッドや布団など用意しているが必ずしもそれを使わなくてはいけないわけではないと説明している。そうしたなか、ラジカセや化粧品などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用する他、歩行のトレーニング等行っている		